

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.7



市民の皆さん、こんにちは。

最近、新型コロナウイルス感染症患者が五所川原保健所管内で増加しており、高齢者福祉施設でクラスターが発生するなど、予断を許さない状況が続いています。つがる総合病院においても感染患者の急増により病床が逼迫(ひっばく)し、一般診療にも影響を来している状況にあります。市民の皆さんには、感染リスクが身近に迫っているという意識を持ち、今後とも感染防止対策の徹底をお願いします。

また、現在、「新型コロナウイルス感染症対策設備導入支援補助金」の申請を受け付けていますが(受付期限：7月30日(金)まで)、地域の経済を再生させる前提になるのが、やはり徹底した感染対策です。経済の立ち直しに向けて、地域を挙げて全力で感染対策に取り組み、安全・安心な環境を整えるため、より多くの事業者の皆さんのご協力を心よりお願いします。本制度への取り組みの証である「ごしょがわら積極的感染症対策取組店」認証ステッカーが市内の多くの各店舗・事業所に掲示されることを願っております。

★漆川工業団地の躍進

さて、今月の広報(4ページ)にも掲載していますが、漆川工業団地の全区画(52.9ha)が7月末で売完となる見込みとなりました。現在、誘致企業と地元企業の35社が立地していますが、7月末には39社が立地することになり、また、既存の企業も事業拡大が進んでいます。

地方の人口減少が急速に進行し、国立社会保障・人口問題研究所では、令和27年に当市の人口は約3万1千人まで減少し、高齢化率も50%を超えると推計しています。これに歯止めをかけるためには、若者の定住促進が不可欠であり、まずは地域により多くの雇用の受け皿をつくるのが重要です。当地域の基幹産業は農業をはじめとする第1次産業ですが、製造業などの第2次産業を伸ばすことが、安定した雇用の場の確保へとつながる確実な道であり、地域全体の活力の源泉であると考えています。

こうした認識に立ち、私自身、令和元年度から定期的に各誘致企業への訪問を行い、積極的にアプローチすることで、思いを共有しながら関係性を深めてきました。人口減少対策は、外から人を呼び込む、いわゆる移住

者を増やすことも一つの方法ですが、若者が生まれ育った地元で働き、そこに住み続けたいと思える魅力ある地域社会を作り、同時に、安心して家庭を持ち、子育てできる、そういう五所川原市にするために力を尽くすことが重要であると考えています。

今後も各企業と連携を深めながら、次代を担う若い世代を支援し、未来を見据えた足腰の強い地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。

★皆さんのご意見こそが行政サービス向上の原点

5月12日に、子育てステーションすてっぷの「お茶会」に出席させていただき、子育て世代のお母さん方から「夜中や一人のとき、急な陣痛が来た時にタクシーを利用できる仕組みを作ってほしい」「平日は仕事や家事で遅くまで多忙なので、休日にマイナンバーカードの受取窓口を開庁してほしい」など、さまざまな貴重なご意見やご要望をいただき、大変有意義な時間でした。なお、ご要望のあった休日の受取窓口については、6月、7月の第2、第4日曜日の9時から16時まで開庁することとしました。

私は、市民の皆さんからのご意見はどんな小さなことでも耳に入れるように心掛けており、そういうご意見にこそ重要なヒントがあり、より良い行政運営の基本であると考えています。今後も、真に必要な行政サービスを提供できるよう努めてまいりますので、忌憚(きたん)のないご意見を頂ければと思っています。

★「赤～いりんご」のシードルが新たに誕生

五所川原市の特産品の「赤～いりんご」を原料としたシードル二品が、このほど誕生しました。

5月28日に完成報告があり私も試飲しましたが、美しい色合いはもちろん、爽やかな飲み口ながら、料理のお供にもなる深みのある味わいは、個人的に地元特産の市浦牛を使った料理とコラボレーションしてみたいと思いました。

今後は、こうした市の特産品を活用し、民間事業者の皆さんの知恵とノウハウを活かしながら、当市ならではの魅力ある商品や特産品の開発に、官民一体となって取り組んでいければと考えています。



「誘致企業訪問(富士電機津軽セミコンダクタ株)」の様子



「子育てステーションすてっぷ お茶会」の様子